

略○中 此ノ持來タル物共ノ食ヲ見レバ、牛馬ノ肉也ケリ、僧此レヲ見ルニ、奇異キ所ニモ來ニケルカナ、我ハ餌取ノ家ニ來ニケリト思テ、夜ニハ成ヌ、可行キ所无ケレバ、只居タルニ、臭キ香狹キ菴ニ滿タリ、穢ク佗キ事无限シ、

〔今昔物語 三十〕住丹波國者妻讀和歌語第十二

今昔丹波ノ國□□ノ郡ニ住ム者アリ、田舍人ナレドモ、心ニ情有ル者也ケリ、其レガ妻ヲ二人持テ家ヲ並ベテナン住ケル、本ノ妻ハ其ノ國ノ人ニテナン有ケル、其レヲバ靜ニ思ヒ、今ノ妻ハ京ヨリ迎ヘタル者ニテナン有ケル、其レヲバ思ヒ増タル様也ケレバ、本ノ妻心疎シト思ヒテゾ過ケル、而ル間秋北方ニ山郷ニテ有ケレバ、後ノ山ノ方ニ糸哀レ氣ナル音ニテ鹿ノ鳴ケレバ、男今ノ妻ノ家ニ居タリケル時ニテ、妻ニ此ハ何ガ聞給フカト云ケレバ、今ノ妻、煎物ニテモ甘シ、燒物ニテモ美キ、奴ゾカシト云ケレバ、男心ニ違ヒテ、京ノ者ナレバ、此様ノ事ヲバ興ズラントコソ思ヒケルニ、少シ心月无シト思テ、略下

〔海人藻芥〕四足ハ總テ不備之、然ヲ吉野帝後村上院ハ、四足ノ物共ヲモ憚ラセ給ハズ、聞召シケルトカヤ、サレバ御合體ノ後、男山マデ御幸成ラセ給ヒケレドモ、又吉野ノ奥へ還幸成セ給フテ、都へハ終ニ一日片時モ入セ給ハズ、是ハ併天照太神ノ神意ニ違ハセ給ヒケル故ナリトゾ、人皆申合ヒケル、

〔鹽尻 三十五〕或曰、我尾敬公○德川直御狩の時、鹿を御家人に賜ふ、鹿食の穢三日也と仰られし如何、

予信○天野景曰、公の御博識當時誰か其右に出ん、是を考ふるに、延喜式曰、凡觸穢云々、六畜、喫肉三日云々、法曹至要抄ニモ亦曰、喫鹿の穢三日といへり、是私家の事に非ず、古へは天子元三の御膳にも獸肉を奉りし事、江家次第等に見へたり、其儀を用ひ給ひしにや、

〔兎園小説 五集〕奥州南部癸卯の荒饑